



Title	ベンデ語の限定表現tu=の用法
Author(s)	阿部, 優子
Citation	スワヒリ&アフリカ研究. 2024, 35, p. 121-135
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/95324
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

ベンデ語の限定表現 *tu=* の用法 An Exclusive Expression of *tu=* in Bende

阿部 優子*

ABE Yuko

0. はじめに¹

本稿では、まずベンデ語（バントゥ F12、タンザニア）²のとりたて表現の全体像を概説し、その中でも特に限定表現の *tu=* に注目してその特徴と制約を整理し、さらにベンデ語の *tu=* とスワヒリ語の *tu* との相違点を明らかにする。ベンデ語の *tu=* は、スワヒリ語の副詞 *tu*（～だけ）と同源で、バントゥ祖語で **tu* ‘alone, empty, vain’ と再建されている (Bastin et al. 2002)。しかしながら、スワヒリ語とは異なりベンデ語では *tu=* が単独の語として用いられることはなく、とりたてる語の前接語 (proclitic) として現れるか、場所を表す後接語 *=ho, =ko, =mo* と組み合わせて、「ここ、あそこ、その中」といった場所をとりたてるか、焦点標識の後接語 *=e* と組み合わせて *tú=e* という形態で後置詞として直前の語句をとりたてて。本稿で用いるベンデ語の用例は、筆者がこれまで収集したテキストコーパスおよび誘出調査で得られたものである。本稿は、これまで筆者のベンデ語文法の記述において、「焦点」として未整理にしていたものを、日本語研究との比較において整理するものであり、これをベンデ語のとりたて表現研究の嚆矢としたい。

1. とりたて表現の先行研究（野田、米田 2019）

本稿で扱う「とりたて表現」は、野田 (2019) の『日本語と世界の言語のとりたて表現』が提案する、現代日本語をもとにした世界の言語のとりたて表現の比較研究の枠組みに基づいたものである。野田 (2019) の研究では、1) とりたてを表す形態、2) とりたて表現が表す意味、3) とりたて表現の位置、4) とりたて表現の文法的制約、5) とりたて表現の運用、の 5 点の観点からさまざまな言語のとりたて表現を記述・分析している。本稿では、

* 中国蘭州大学歴史文化学院正教授 (School of History and Culture, Lanzhou University, China)

¹ 本稿では、原語の引用にはイタリックを用いる。またベンデ語に用いる表記法は以下の通り。子音は 21 種類 (*p* [p], *b* [b], *t* [t], *d* [d], *ch* [c], *j* [j], *k* [k], *g* [g], *m* [m], *n* [n], *ny* [ɲ], *ng'* [ŋ], *bh* [β], *f* [f], *s* [s], *z* [z], *gh* [ɣ], *h* [h], *w* [w], *y* [j], *l* [l])、母音は *i, e, a, o, u* の 5 種類で長短の区別がある。長母音の場合は、*aa* のように、2 つ母音を並べて表記する。また、*-* は形態素境界、*=* は接語 (クリティック) の境界を、*#* は複合動詞の複合境界を表す。

² ベンデ語は、タンザニア西部のカタヴィ州で話される言語で、話者は 41,490 人 (LoT Project 2009)。ガスリー (Guthrie 1948) では F12 のリファレンス番号が振られている。隣接するトングエ語 (F11) とは、動詞の活用の一部や語彙に方言差程度の違いが観察されるが、ベンデ・トングエ語の多くの話者が両者を「同じ言語」と認識している。

ベンデ語のとりたて表現すべてについて網羅的に記述するには至っていないが、そのうちの *tu=* に注目して記述するものである。野田 (2019) の観点に従い、ベンデ語の 1)-3) の全体的なとりたて表現の記述をしたのち、限定を表す *tu=* を取り上げ、4)、5) の観点も考慮しつつ、ベンデ語のとりたて表現の一側面を提示する。

野田 (2019) では、世界のさまざまな言語のとりたて表現を、規定の枠組みに従って記述・分析したものを収録しているが、バントゥ語についても、米田 (2019: 237-253) がヘレロ語の例を示している。また、5 章ではスワヒリ語のとりたて表現の *tu* との比較を試みているが、スワヒリ語のデータは Yoneda and Miyazaki (2018) を参考に、科研費研究課題 ‘A crosslinguistic study of prosody of particles: Japanese and Bantu languages’ (20K00578, 研究代表者：李勝勲) で作成した調査資料を用いた。以下、ベンデ語のとりたて表現の概要とその一つである *tu=* の例を示していく。

2. ベンデ語のとりたて表現

野田 (2019: 9) は、とりたて表現の意味を表 1 に示すように 6 種類に分類している。

表 1 とりたて表現があらわす意味の分類 (野田 2019: 9)

限定	だけ、ばかり、しか	反限定	でも、なんか
極端	さえ、まで、も	反極端	なんて、ぐらい
類似	も	反類似	は

表 1 をもとに、ベンデ語のとりたて表現のうち、形態的に確認できるものを、表 2 に整理した。反限定 (でも、なんか)、反極端 (なんて、ぐらい)、反類似 (は) にあたる形態が見つからない。語順や分裂文、プロソディーなどの別の方法によって表現できる可能性はあるが、現在のところ十分な検証ができていない。米田 (2019: 238) のヘレロ語の記述でも、これら 3 種類の形態は見つからないので、反限定、反極端、反類似の形態がない何らかの共通の理由も考えられるが、本稿では扱わない。

表 2 ベンデ語のとりたて表現の形態および位置

限定	前置型: <i>tu=</i>	反限定	--
	後置型: <i>(-á) mwéngá, -ongwa, tú=e, =e</i>		
極端	前置型: <i>ninga (~linga), nensi</i>	反極端	--
類似	後置型: <i>náágho</i>	反類似	--

ベンデ語では、とりたてる語句に対して前置される形態と後置される形態があるため、前置型・後置型として区別した。限定用法では、前置型・後置型の両方があるが、極端用法では前置型のみ、類似用法では後置型のみが見つかった。

以下にベンデ語のとりたて表現の各形態の例をあげる。とりたて表現の形態は太字で、とりたてる語句は下線で示す。

(1) 限定（だけ）：前置型

tú=ghoóghu *ghú-mwi* *ni ghwá mu-jí-ndi n-daa*

only=1.this 1-one COP 1-CON 18-9-other 9-belly

「この一人だけが別のお腹（家族のメンバー）だ」

*tu=*は前接語（proclitic）で、発音も短く（音韻的単位は *túghoóghu*）、接語に特徴的である極性音調を持つ。すなわち、後続の音節が高声調で始まる場合は低声調で、低声調で始まる場合は高声調で実現される。図 1 は(1)の文のピッチと長さを示したものである。

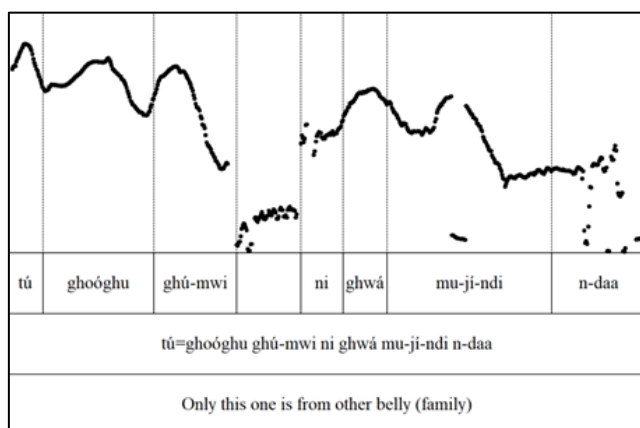


図 1 前接語 *tu=*を含む (1) の F0

(2) 限定（だけ）：後置型

a. *piim-a kilo jí-mwi jyă mú-nyófu, jí-ndí bhú-sóóje bhwă mwéngá*

measure-F 9.kg 9-one 9.CON 3-flesh 9-other 14-guts 14.CON only

「赤身肉を 1 キロ、他には内臓だけ（1 キロ）を量ってちょうだい」

bhwămwéngá は、所有詞（名詞 14 クラス接辞 *bhw-á*）と *mwéngá* 「唯一」からなる。とりたてる名詞（句）である *bhú-sóóje* 「内臓」（14 クラス）と、所有詞の名詞クラスを一致させることで、修飾関係が示され「内臓だけ」となる。ただし *mwéngá* の統語的機能につい

では、2つの可能性がある。所有詞を伴う *-á mwéngá* 「唯一の」の場合の *mwéngá* は名詞であるが、*-á* を伴わずに *bhú-sóóje mwéngá* 「内臓だけ」とすることも可能である。つまり *mwéngá* は形容詞として用いられるが、その場合、とりたてる名詞と形容詞とのクラス一致はない。両者の区別は特にないという。

- b. *malia ghó-ongwa a-loo-jís-á*
 1.Maria 1-alone 3SG-FUT-come-F
 「マリア一人だけが来る」

ghó-ongwa もまた、とりたてる名詞（句）で、「一人だけ」という含意がある。*malia* 「マリア」（1クラス）と名詞クラスを一致させることで、修飾関係が明らかである。

- c. *té=ku-bh-a kila mú-bhénde ghó=gha-a-sáng-á nó kú-seésy-a tú=e*
 NEG-15-be-F every 1-Bende FOC=3SG-cons-meet-F and 15-greet-F just
 「ベンデ人だからといって、ただ会って（会ったからといって）柏手を打つ挨拶をするわけではない」

tú=e は、名詞および動詞をとりたてることができる。この形態は、前接語の *tu=* に焦点標識の後接語 *=e* を組み合わせて *tú=e* としたもので、一語の後置型のとりたて詞となる。

- d. *ánya gha-a-ká-j-ânga mu-ka-mú-hens-á tu=ghulya ghú-mwĩ=e*
 Asha 3SG-PST-DIS-go-ITS-F 18-ITV-3SG-want-F only=3.that 1-one=FOC
 「アーシャはそれだけを欲しかった」

より明確にとりたてる語句を限定したい場合は、例 e. のように前接語の *tu=* と焦点標識の後接語の *=e* で囲む。

極端を表す形態は *ninga* (~*linga*)³, *nensi* の2種類で、とりたてる名詞句の直前に置く。

(3) 極端（さえ）：前置型

- a. *ningá mú-keekúlú a-kóo-bhw-ělé gha-a-seésy-a mu-twana*
 even 1-elder 3SG-HAB-see-ANT 3SG-CONS-greet-F 1-child
 「(子供や若者だけでなく) 年寄りさえ、子供に挨拶するものだ」

³ *ninga* はトンゲ方言、*linga* はベンデ方言とされるが、両方を使う話者も多い。

- b. *kíla mí-ntú nensi mu-újamáa e-e#ku-hens-á kú-tung-á*
 every 1-person even 1-socialist 3SG-be(li)⁴-15-want-F 15-keep-F
 「誰もが、社会主義者さえも、(家畜を) 飼いたがる」

- c. *ú-ú#ku-poót-w-a kú-mányá nensi tu=sí-ntú sí-mwi*
 2SG-be(li)#15-succeed-PAS-F 15-know even only=7-thing 7-one
 「あなたは一つも理解していない」 (*nensi, tu=* どちらもとりたて形態)

(3c.) の例文では、極端用法の *nensi* に加え、限定用法の *tu=* が前接する。このように 2 つのとりたて形態を並べて、*sí-ntú sí-mwi* 「一つのこと」をとりたてることも可能である。

類似 (も) を表すには、*náágho* という形態がある。*náágho* は、付加を表す接続詞の *ná* と、名詞 3 クラスの指示詞 *ghoógho* 「その (3 クラス)」が短縮された *gho* が組み合わせさったものと考えられる。ただし、*gho* に名詞クラスの機能はなく、クラスの一致は起こらない。同じ形態の *gho=* は、名詞クラスの一致をしない焦点標識の前接語としても用いられる。また (4) に示すように、*náágho* はさらに焦点標識の後接辞=*e* を伴うこともある。

(4) 類似 (も) : 後置型

- jeéji n-suúinkó náágho=e u-kóó-lim-a*
 9.this 9-tabacco also=FOC 2SG-HAB-cultivate-F
 「(豆だけでなく) このタバコも、あなたは耕しているのですね」

3. ベンデ語の限定表現 *tu=* の用法

前章で述べたように、ベンデ語のとりたて表現の形態のうち、限定用法の *tu=* は前接語としてとりたてる語句の前に現れる前置型と、*tí=e* のように他の要素と組み合わせて、とりたてる語句の後ろに現れる後置型とがある。また、*tu=* がつく語句は、名詞 (句) や動詞 (句)、副詞、前置詞や接続詞のこともある。

本章では、*tu=* の用例を網羅的に示すことで、その特徴を整理する。*tu=* が、1) 直後の語句に倚りかかる前置型か、*tí=e* となって直前にある語句をとりたてる後置型であるのか、2) 前接語が倚りかかる語句がいかなる要素であるのか、3) 後置型がつけられる条件はいかなるものか、4) とりたてる語句の範囲はいかなるものか、という観点から 3.1. – 3.5. に分類する。

⁴ 現在形の活用は [主語接頭辞-*li#ku*-動詞語幹] であるが、コピュラ動詞の *li* は、しばしば弱化して、主語接頭辞の母音が複製される。

3.1. 前置型 *tu=* 名詞句

ここでは名詞句に前接し、さらにその名詞句をとりたてる *tu=* の例をあげる。コピュラ文の主語、動詞文の主語や目的語などの名詞句をとりたてる。

(5) コピュラ文の主語につく *tu=*

tú=ghoóghu ghú-mwi ni ghwá mu-jí-ndi n-daa. (=1a.)

only=1.this 1-one COP 1-CON 18-9-other 9-belly

「この一人だけが別の家族（のメンバー）だ」

(6) 自動詞文の主語節につく *tu=*

a. *tu=mália a-loo-jís-á*

only=1.Maria 3SG-FUT-come-F

「(他の人もいる中) マリアだけが来る」

b. *malía ghó-ongwa a-loo-jís-á* (=1d.)

1.Maria 1-alone 3SG-FUT-come-F

「マリア一人だけが来る」

(6) は自動詞の主語につく *tu=* である。(6a.) に似た表現に、前出の *-ongwa* を用いた (6b.) があるが、(6b.) が特に文脈がなくても「マリア一人だけが来る」と言えるのに対し、(6a.) は、他にも来る可能性がある人がいる中、マリアだけが来るという含意があり、典型的には「何人が来ますか？」という質問の応えに用いられる。

(7) 他動詞の目的語句につく *tu=*

a. *gha-a-twāl-a tú=ghoóghu mw-áná ghw-ake*

3SG-PST-take-F only=1.this 1-child 1-her

「彼女は彼女の子供だけを連れていった」

b. *kú-j-á ty-á-ka-sábhúl-e tú=mú-twe ghw-ake mw-áná-áje*

15-go-F COMP-3SG-ITV-dig.out-SUBJ only=3-head 3-her 1-child-her

「彼女は自分の子供の頭だけを掘り起こしに行った」

c. *kundi gha-a-mú-sáng-án-a néé ku-ly-a tu=ma-joobha*
 and.then 3SG-CONS-3SG-find-REC-F and 15-eat-F only=6-peanuts
 「それから彼は彼女に会って、ピーナツだけを食べた。」

他動詞の目的語に *tu=* が前接する例には (7a.-c.) のようなものがある。*tu=* のとりたてる語句の範囲は特に示されていないが、通常は目的の名詞語句全体がとりたてられる。

3.2. 前置型 *tu=* 付加的要素・節

tu= は、副詞、前置詞、接続詞などの付加的要素 (adjunct) につくこともある。

(8) 付加的要素 (副詞) につく *tu=*

lakini ku-bha-fyeéji bha-kóó-seésy-a tú=kawáida=e
 but 17-2-parent 3PL-HAB-greet-F only=normal=FOC
 「しかし、両親に関していえば、彼らはごく普通に挨拶するよ」

(8) では、*tu=* と *=e* とで *kawáida* 「普通に」という副詞を囲んで「ただ普通に」とする。

(9) 付加的要素 (前置詞句) につく *tu=*

a. *ghoógho mú-sya gha-a-sw-án-a tu=né e-bha*
 1.that 1-slave 3SG-PST-agree-REC-F only=with 5-husband
 「その奴隷は、主人のみと (関係を持つことを) 同意したのだ」

b. *kundi gha-á-sáng-án-a tu=nó mú-kéékulu*
 and.then 3SG-CONS-find-REC-F only=with 1-elder
 「それから、彼は老人とだけ会った」

(9a.-b.) の例はそれぞれ、*né e-bha* 「夫と」、*nó mú-kéékulu* 「老人と」をとりたてるが、これらの例の *tu=* がつくのは前置詞の *né~nó* 「〜と」で、前置詞句全体をとりたてる。

(10) 接続詞につく *tu=*

tú=kubhá syo=ghw-á-kobhól-á kú-tend-á syo=ghw-á-tend-á
 only=COMP 7.REL=2SG-CONS-be.able-F 15-say-F 7.REL=2SG-CONS-say-F
 「言うべきことを、言うだけだ」

(10)の例は、*tu=*が接続詞（補文標識 *kubha*）についている例である。この場合、接続詞に導かれる節全体をとりたてている。

3.3. 前置型 *tu=* LOC

*tu=*は、場所クラス（16-18 クラス）の後接語である=*ho*, =*ko*, =*mo* と結びついて、場所（そこ）をとりたてて、「そこだけ」となる。

(11) 場所クラスの後接語をとりたてる *tu=*

- a. *ga-a-tum-a* *tú=ko*
3SG-PST-send-F only=17
「彼（女）はそこ（17）にだけ使いをやった」

- b. *ú-lóó-ká-sang-a* *tú=ho* *mú-bhwibhwi=e*
2SG-FUT-DIS-find-F only=16 3-dragged.trace=FOC
「あなたはそこ（16）にだけ、引きずった跡を見つけるだろう」

3.4. 前置型 *tu=* 動詞句

*tu=*は、動詞句に前接するものがある。ただし、主節の定型動詞の場合、前接語はつけられず、その場合は 3.5 に示す後置型の *tú=e* でとりたてる。前接語 *tu=*がつけられる動詞句としてこれまで見つかっている例には、(12)の命令形、(13)の関係節、(14)の不定形がある。

(12) 動詞命令形につく *tu=*

- tu=hémbél-é* *bhé-éná-ane*
just=wait-IMP 2-child-my
「ちょっと（ただ）待っておくれよ、子供らよ」

(13) 関係節につく *tu=*

- tu=bhó=ly-a-kilim-âng-a=é*
just=14.REL-5.SP-PST-run-ITT-F=FOC
「それ（5）はただ走って行ってしまったんだ」

(14)の不定詞につく *tu=* のうち、(14c.) の *mu-ká-put-é*「切りに行く」は動詞要素ではあるが 18 クラス接頭辞 *mu-*と方向を表すモダリティー辞の *ká-*「～しに行く」を用いた不定形

に *tu=* が前接している。この場合、*tu=* のとりたてる範囲は、*mu-ká-put-é* のみを取りたてるのか、動詞句全体の *mu-ká-put-é silyá sí-tí* 「あの木を切ってくる」を取りたてるのか、どちらの解釈も可能である。

(14) 不定詞につく *tu=*

- a. *gha-a-fík-á* *gha-á-j-a* *tu=kú-sábhúl-a*
 3SG-PST-arrive-F 3SG-CONS-start-F only=15-dig.out-F

「彼女は着いたら、すぐに掘り起こし始めた」

- b. *kú-súghó* *né sí-hwa* *ghw=ene* *tu=kú-jél-á=e*
 15-rainy.season and 7-dry.season FOC=oneself just=15-head.for-F=FOC

「雨季であれ乾季であれ、実際のところ、ただ通ればいい」

- c. *ka-j-êng-e* *tú=mu-ká-put-é* *silyá* *sí-tí*
 ITV-go-INT-IMP just=18-ITV-cut-SUBJ 7.that 7-tree

「行って、ただあの木を切ってきなさい」

「行って、あの木をただ切ってきなさい（枝は落とさなくていい）」

3.5. 後置型 *tú=e*

(2c.)で示したように、*tú=e* は前接語の *tu=* と焦点標識の後接語 *=e* を組み合わせたもので、独立の後置型とりたて詞として使われる。また、極性声調を持つ前置型の *tu=* とは異なり、*tú=e* の声調は常に同じである。前置型の *tu=* は動詞定型につくことができないことを 3.4. で確認したが、そのような動詞定型文では *tú=e* が用いられる。ただし、後置型の *tú=e* は、とりたてる語句の範囲が、直前の語なのか、さらに前の語句までとりたてるのかは判断がつきにくく、解釈は文脈に依存する。

(15) は自動詞の後ろに置かれる *tú=e* の例である。(15a.) などの動詞に、前置型の *tu=* をつけても、非文とされる (**tú=fí-kóó-língáán-á*)。また *tú=e* はとりたてる範囲があいまいなことがある。(15a.), (15b.) ではとりたてる範囲は明らかであるが、(15c.) の文では、*tú=e* の直前にある *fí-lyooh-ilé* 「よいのです」のみがとりたてられるのか、*nó-ó-haghalé-éléfí-lyooh-ilé* 「立っていればよいのです」とその前の動詞も含めてとりたてられるのか明らかでない。一方、(15d.) はコピュラ *ni* があるために、とりたてる範囲が *ni* より前まで拡張されることはない。(15e.) は、*kubhafy-á-jél-á mú-láábho* 「もし朝、それらが許すなら」が条件節となっているが、文末にある *tú=e* のとりたてる範囲が節を跨ぐことがないため、*tu-li#kú-kú-*

pánd-á 「私たちはあなたに霊を呼んであげましょう」の節のみをとりたてている。

(15) 自動詞につく *tú=e*

a. *fi-kóó-língáán-á* *tú=e*

8-HAB-be.similar-F just=FOC

「ただ、それらが似ているだけだ」

b. *bhe-ené bha-kóó-sees-ibhw-a* *tú=e*

2-oneself 3PL-HAB-greet-PASS-F just=FOC

「彼ら自身も、ただ拍手を打つ挨拶をされる」

c. *ninga nó-ó-haghalé-élé fi-lyooh-ilé* *tú=e*

even and-2sg-stand-ANT 8-be.good-ANT just=FOC

「あなたは立ってさえいれば、よいだけです」

「あなたはただ立っているのですよいのです」

d. *kabhíla j-indí mu-ghaágho ni jy-á ma-nywělé ghá-kóó-li-ibhw-a*

9.group 9-other 18-9.those COP 9-CON 6-animal 6.REL-HAB-eat-PAS-F

tú=e bhúsílá ku-peél-w-a

just=FOC without 15-sacrifice-PAS-F

「その中のうちの他のグループは、生贄にされることもなく、ただ食べられてしまった動物たちだ」

e. *kubha fy-á-jél-á mú-láábho tu-li#kú-kú-pánd-á* *tú=e*

if 8-CONS-agree-F 3-morning 1PL-be#15-2SG-raise.spirits-F just=FOC

「もし朝、それらが許すなら、まさに私たちはあなたに霊を呼んであげましょう」

(16) は目的語を含む他動詞句に *tú=e* が後置される例である。目的語を含む動詞句では、(16a.) のように *tú=e* は目的語の後に置かれ、目的語を含む他動詞句全体をとりたてる。ただし、目的語句のみをとりたてる場合は、(16b.) に示すように、前接語 *tu=* をつけるか、あるいは *tu=* と *e* でとりたてる目的語句を囲む。

(16) 他動詞につく *tú=e*

- a. *júma gha-a-ká-mú-lond-ang-a mú-kasí ghú-mwĩ tú=e*
Juma 3SG-PST-DIS-3SG-follow-ITS-F 1-wife 1-one only=FOC

「ジュマはただ一人の妻を追いかけた」

- b. *júma gha-a-ká-mú-lond-ang-a tu=mú-kasí ghú-mwĩ=e*
Juma 3SG-PST-DIS-3SG-follow-ITS-F only=1-wife 1-one=FOC

「ジュマは一人の妻だけを追いかけた」

ところが、*tú=e* を動詞の直後、つまり *gha-a-ká-mú-lond-ang-a* と *mú-kasí* の間に挿入すると非文となる。スワヒリ語の *tu* は *tú=e* に似た後置型の限定のとりたて詞であるが、スワヒリ語の場合、他動詞句の目的語の後、あるいは動詞の直後のどちらにも *tu* が現れうる。ベンデ語の *tú=e* とスワヒリ語の *tu* の比較は4章で行う。

3.6. *tu=*の用法まとめ

本章では、*tu=* が直後の語句に倚りかかる前置型か、*tú=e* となって直前にある語句をとりたてる後置型であるのかで用例を分類した。3.1–3.4 は前置型の *tu=* で、前接語が倚りかかる要素によって分類した。前置型の *tu=* が倚りかかる要素には、名詞句、副詞や前置詞句の付加要素（動詞項ではないもの）、場所クラスの後接辞、定型でない動詞句がある。名詞句は、コピュラ文の主語、あるいは動詞の主語、目的語などすべての環境でつけられる。ただし動詞の主語には、別のとりたて詞の *-gongwa* 「一人／それだけ」との使い分けがあり、*tu=* の方が文脈に制限がある。また、動詞句につく *tu=* は命令形、関係節、不定形で現れる例があるが、通常の定型動詞はつけると非文になる。

3.5. の後置型の *tú=e* は、自動詞、他動詞文のどちらでも使われるが、他動詞文の場合は目的語を含む動詞句の目的語の後ろにつけて、動詞句全体をとりたてる。ただし、他動詞文で、動詞と目的語句の間に *tú=e* を挿入すると非文になる。また、動詞の目的語句のみをとりたてたい場合は *tú=e* を用いず、目的語句に *tu=* を前接する。

とりたてる語句の範囲を明確にしたい場合は、前接語 *tu=* と焦点標識 *=e* でとりたてる語句を挟む。そうでない場合は、前接語 *tu=* のとりたてる範囲が、右方のどこまでなのかはいまいで文脈に依存する。また、後置型の *tú=e* がとりたてるのは動詞句であるが、その範囲が左方のどこまでなのかはいまいで、やはり文脈に依存する。とりたてる範囲のあいまい性という点では、スワヒリ語の *tu* にも類似の現象がある。次章ではベンデ語の後置型の *tú=e* とスワヒリ語の *tu* との、とりたて方の相違点を示す。

4. スワヒリ語 *tu* との比較

前章でベンデ語の *tu=* に前置型と後置型があるのを確認したが、本章ではベンデ語の後置型の *tú=e* と、やはり後置型で限定のとりたて詞であるスワヒリ語の *tu* とを比較する。

スワヒリ語の *tu* は、句末に置くとされるが (Wilson 1985: 72)、目的語を含む他動詞句の場合、目的語の後ろに現れる (17) か、動詞の直後に現れる (18) の、2つのタイプがある。

(17) スワヒリ語：他動詞目的語に現れる *tu*

Juma a-li-m-fuat-a m-ke m-moja tu.

Juma 3SG-PST-3SG-follow-F 1-wife 1-one only

- a. 「ジュマは一人だけの妻を追いかけた」
- b. 「ジュマは一人の妻だけを追いかけた」
- c. 「ジュマはただ一人の妻を追いかけた」

(17) のように、目的語を含む動詞句の後にあらわれる *tu* の場合、とりたてる範囲があいまいになることがある。この例では、*tu* のとりたての範囲が、直前の数詞 *mmoja* 「一人」のみの場合 (17a.)、あるいは名詞句全体の *mke mmoja* 「一人の妻」の場合 (17b.)、あるいは動詞句全体の *alimfuata mke mmoja* 「ただ一人の妻を追いかけた」 (17c.) の3種類の可能性があり、どの解釈が選ばれるかは文脈に依存する。

一方、スワヒリ語は (18) のように、動詞の直後に *tu* を置くことも可能で、その場合は直前の動詞のみをとりたてる。

(18) スワヒリ語：他動詞句で動詞の直後に現れる *tu*

Juma a-li-m-fuat-a tu m-ke m-moja.

Juma 3SG-PST-3SG-follow-F only 1-wife 1-one

「ジュマは一人の妻をただ追いかけた」

(17) のスワヒリ語の例に相当する表現をベンデ語に翻訳してもらうと、(19a.-c.) のようになる。(17) のスワヒリ語例では、同じ形式で3種類の解釈が可能であったが、ベンデ語ではそれぞれ3つの異なる形式が得られた。(19a.), (19b.) は、前置型の *tu=* および *=e* を用いてとりたてる範囲を限定することができ、それぞれスワヒリ語の (17a.), (17b.) の解釈に相当する。(19c.) は後置型の *tú=e* を動詞句の目的語の後ろに置くが、これはスワヒリ語の (17c.) の解釈に相当する。

(19) スワヒリ語 *Juma alimtafuta mke mmoja tu* のベンデ語訳

a. *júma gha-a-ká-mú-lond-ang-a mú-kasí tu=ghú-mwĩ=e*
 Juma 3SG-PST-DIS-3SG-follow-ITS-F 1-wife only=1-one=FOC
 「ジュマは一人だけの妻を追いかけた」 cf. (17a.)

b. *júma gha-a-ká-mú-lond-ang-a tu=mú-kasí ghú-mwĩ=e*
 Juma 3SG-PST-DIS-3SG-follow-ITS-F only=1-wife 1-one=FOC
 「ジュマは一人の妻だけを追いかけた」 cf. (17b.)

c. *júma gha-a-ká-mú-lond-ang-a mú-kasí ghú-mwĩ tú=e*
 Juma 3SG-PST-DIS-3SG-follow-ITS-F 1-wife 1-one only=FOC
 「ジュマはただ一人の妻を追いかけた」 cf. (17c.)

ところが、ベンデ語では (18) のスワヒリ語の例に相当するものを訳出することができない。ベンデ語ではスワヒリ語のように、動詞の直後に *tú=e* を置いて、動詞のみをとりたてるということができず、したがって (20) は非文とされる。

(20) **júma gha-a-ká-mú-lond-ang-a tú=e mú-kasí ghú-mwĩ*
 (意図された文) 「ジュマは一人の妻をただ追いかけた」 cf. (18)

つまり、他動詞句で *tú=e* を置くことができるのは、(19c.) のように目的語の後ろのみで、他動詞句全体をとりたてる。目的語を含む他動詞句の場合は、(19a.) や (19b.) のように、目的語のとりたてる範囲をより限定することができ、ベンデ語ではスワヒリ語の (17) の例に見られるあいまい性を回避することができる。その一方で、ベンデ語は目的語を含む動詞句のうち動詞のみをとりたてることができない。

5. 結論

本稿ではベンデ語のとりたて表現を概観した。これまでの筆者のベンデ語文法の記述において、「焦点」として未整理にしていたものを、野田 (2019) の枠組みで整理しなおすという試みである。特に限定表現の *tu=* に注目し、前置型・後置型に分けて、その出現の条件やとりたての範囲を明確にした。前置型 *tu=* は、定型動詞以外の様々な要素につくことができ、さらに焦点標示の *=e* を組み合わせてとりたてる語句を囲んで限定的にすることもできる。一方、後置型の *tú=e* はスワヒリ語の *tu* に似た用法ではあるが、動詞句末につけ

て動詞句全体をとりたてることができるものの、他動詞句内の動詞のみをとりたてることができない。*tu=* 以外の方法で、他動詞句の動詞をとりたてられる要素としては、関係節の様態をあらわす前接語 *bho=* 「～のような」があるが（(13)を参照）、この要素が *tu=* に相当する限定表現になのかどうかは、さらに用例を収集して誘出調査を行う必要があるため、今後の調査の課題としたい。

また、スワヒリ語との比較から、ベンデ語の *tu=* には前置型・後置型の両方があるために、後置型のみのスワヒリ語の *tu* に比べて、とりたての範囲をより限定することが可能で、スワヒリ語に見られるあいまい性の一部が回避される。しかし、スワヒリ語では可能な他動詞のとりたてが、ベンデ語の *tu=* ではできない。このようなギャップをどのように補完しているのか、*tu=* 以外のとりたて表現も含め全体を包括的に整理することで、ベンデ語のとりたて表現の全体像が明らかになると期待している。

略号

CAU (causative), COMP (complementizer), CON (connective), CONS (consecutive), COP (copula), DIS (distal), F (final vowel), FUT (future), FOC (focus), ENC (enclitic), HAB (habitual), IDO (ideophone), IMP (imperative), INT (intensifier), ITV (itive), IV (initial vowel), PAS (passive), PL (plural), PST (past), REC (reciprocal), REL (relativizer), SG (singular), SP (subject prefix), SUBJ (subjunctive), 数字 1-18 (person or noun class)

謝辞

本稿を執筆するにあたり、用例の多くは既存のコーパスから集め、とりたてる語句の同定には、主に文脈や古いメモを頼りにした。誘出法による質問調査は一部しかできなかった。したがって、追加調査が必要であるのは言うまでもないが、こうした情報構造の調査の過程は、途方もなく忍耐のいる作業で、調査協力者にこちらの意図が伝えられなかったり、こちらが相手の意図を十分に汲み切れなかったりすることばかりである。米田先生は、この繊細な違いをどのようにあぶり出していくのか、調査現場や研究会で、調査の技術やヒントを惜しみなく皆に共有してくださり、手取り足取り丁寧に指導してくださった。ここに感謝の意を示したい。先生の指導にもかかわらず、筆者の技量不足で、精緻なデータにはなっていない。やはり情報構造の調査は奥が深く、調査者の技量が大きく問われる。本稿中の不十分なデータや記述の誤りは、言うまでもなくすべて著者の責任である。

参考文献

- 阿部優子 (2007). 「ベンデ語 (バントゥ F.12, タンザニア) の記述研究: 音韻論, 形態論を中心に」 東京外国語大学大学院博士論文. <http://repository.tufs.ac.jp/handle/10108/35624>
- 野田尚史 (編) (2019). 『日本語と世界の言語のとりたて表現』. くろしお出版.
- 野田尚史 (2019). 「とりたて表現の対照研究の方法」. 野田尚史 (編) (2019). 『日本語と世界の言語のとりたて表現』. くろしお出版. pp. 3-20.
- 米田信子 (2019). 「ヘレロ語のとりたて表現」. 野田尚史 (編) (2019). 『日本語と世界の言語のとりたて表現』. くろしお出版. pp. 237-253.
- Bastin, Yvonne, André Coupez, Evariste Mumba & Thilo C. Schadeberg (eds.). (2002) *Bantu lexical reconstructions 3*. <http://linguistics.africamuseum.be/BLR3.html> (1 December, 2023).
- Guthrie, Malcolm. (1948) *The classification of the Bantu languages*. The International African Institute. Oxford University Press. <https://ci.nii.ac.jp/ncid/BB22097120> (11 February, 2022).
- LoT Project. (2009) *Atlasi ya Lugha za Tanzania*. Dar es Salaam: Mradi wa Lugha za Tanzania, Chuo Kikuu cha Dar es Salaam.
- Wilson, Peter. M. (1985) *Simplified Swahili*. New ed. Nairobi: Longman.
- Yoneda, Nobuko & Kumiko Miyazaki. (2018) ‘Exclusive particles “only” in Swahili - tu and peke yake’. Handout for SINTU7 (the 7th International Conference on Bantu Languages), Cape Town (10th July, 2018).